

2017年1月22日(日)朝10:10
1月第4共同主日礼拝式説教

主の降誕節第5、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：第7の封印について、 天より下った天の使い

聖書：ヨハネの黙示録 10章1～3節

＜口語訳＞

新約聖書396頁

ヨハネの黙示録 10章1～3節

＜新共同訳＞

新約聖書463頁

ヨハネの黙示録 10章1～3節

＜新改訳第3版＞

新約聖書487頁

ヨハネの黙示10章1～3節＜塚本訳＞

新約聖書798頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放です。
- ◇ヨハネの黙示録10章1～3節は、第6と第7のラツパの間の挿入部分で、天より下った強い天使が、神の恵みの啓示とともに確実に神の審判が行われることを告げる箇所を導入部分です。

本論；

◇本日、ヨハネ黙示録第10章1～3節から主の使信に思い・心をとめます。

◆黙示録10章1～3節；ヨハネは、第6と第7のラツパの間に天よりの強い、御使い派遣し、小さな巻物による神の裁き告知を見ました。

◇1～3節；塚本訳◆巻き物を持つ天使天降る

- 「1 また私はもう一人(他)の強い天使が天から降りて来るのを見た——(私は何時の間にか地上に立っていた——彼は雲を(身に)纏い、虹を(冠として)頭上に戴いていた。またその顔は(さながら)太陽のよう、その足は火の柱のようで、
- 2 手には開いた小さな巻き物を持っていた。そして(全世界に跨がって立ち、)右足を海の上に、左足を地の上に置き、
- 3 あたかも獅子が吼えるような大きな声で叫んだ。そして彼が叫んだ時、七つの雷がその声を出した。」と、ヨハネは神の御座の前の光景を啓示されました。

◇ 1～3節 ;ヨハネは、「強い天使が天から降りて来るのを見」、その天使は、「雲を(身に)纏い、虹を(冠として)頭上に戴き、その顔は(さながら)太陽のよう、その足は火の柱のようで」、「手には開いた小さな巻き物を持ち、(全世界に跨がって立ち、)右足を海の上に、左足を地の上に置き」、「獅子が吼えるような大きな声で」叫んでいて、天使が「叫んだ時、七つの雷がその声を出した」のです。

⇒ 1節 ;「雲を(身に)纏い、虹を(冠として)頭上に戴き、その顔は(さながら)太陽のよう」は、神の御子イエス・キリスト様の再臨の姿を連想させます。

⇒ 「神の御子イエス・キリスト様の再臨」は、「イエスは こう言って、彼らの見ている前で(天に)上げられ、雲が彼を迎えて見えなくなった」(使徒1:9)の記録から連想されます。

⇒ 「雲」は、「神のご臨在」、「虹」は、ノアの大洪水の裁きの後に神が与えて下さった神の契約、「太陽」は、「わが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている」と、神の恵みをそれぞれ象徴。

⇒「雲、虹、太陽」によって、「わが名を恐れるあなたがたには、義の太陽がのぼり、その翼には、いやす力を備えている」のみことばの通り、「神の恵み」は、変わりなく示しつづけておられるのです(マラキ4:2)。

⇒「また都はそれを照らすのに太陽をも月をも必要としない。神の栄光がそれを照らし、仔羊がその燈火であるからである。」(黙示録21:23)とありますように、新天新地では、「神の御子イエス・キリスト様ご自身」が、「燈火・太陽」となって下さるので、その約束の確認をさせるしるしでした。

⇒2～3節；「強い天使」は、「手には開いた小さな巻き物を持っていた。そして(全世界に跨がって立ち、)右足を海の上に、左足を地の上に置き」、「獅子が吼えるような大きな声で叫んだ。そして彼が叫んだ時、七つの雷がその声を出した」と、「神の裁き」に変化がないことを再確認させています。

⇒「小さな巻き物」については、黙示録10:10のように、ヨハネは、これを食べています。

⇒「小さな巻き物」は、「開いた」状態でした。

⇒「(全世界に跨がって立ち、)右足を海の上に、左足を地の上に置き」、「獅子が吼えるような大きな声で 叫んだ。そして彼が叫んだ時、七つの雷がその声を出した」は、「強い天使」の姿は、ヨハネが幽閉されたパトモス島とその島の海・エーゲ海を背景として、「地」、「海」の上に立つ巨人です。

⇒通常の「天使」は、巨人ではありませんが、ここでは、巨人で、「獅子が吼えるような大きな声で 叫んだ。そして彼が叫んだ時、七つの雷がその声を出した」とあるように、強い権威をもって語っており、ヨハネ黙示録4:5の「雷」の箇所、OS師は、天国は、「もの言わぬ 絵画」ではなく、「音声ひびいて迫る」動き出す神の威光の世界であると語っておられます。

⇒「強い天使」、「海と地」を踏む姿は、全世界を支配される神の御子イエス・キリスト様を示すものでもあります。

⇒神の教会は、傍観者であったり、上からの目線で裁かず、神の御子イエス・キリスト様のように執成す祈りの姿を第1としたい。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
- ◇ヨハネの黙示録は、1章1節、「イエス・キリストの黙示」とありますように、神の御子イエス・キリスト様が、天使を通して(1)、長老・使徒ヨハネに与えた「神の国到来の奥義」の黙示で、ローマ皇帝ドミティアヌス(81～96)時代に記録されたものと理解されています。
- ◇ヨハネ黙示録1章は、神の御子の再臨信仰の励ましと神の御子の愛の思い、2章～3章は、7つのアジアの教会への手紙、4～5章は、屠られた仔羊(羔羊)礼拝と天の大讚美、6～9章は、「巻物」第1～6巻開封、144,000人の戦いと神の御座の前での大讚美、第7巻開封前の静寂と聖徒を助ける御使の祈り、御使いのラツパと神の裁き第1段、第2段で、人間を害する蝗による神の裁き、人間殺害の4人の御使い解放です。
- ◇ヨハネの黙示録10章1～3節は、第6と第7のラツパの間の挿入部分で、天より下った強い天使が、神の恵みの啓示とともに確実に神の審判が行われることを告げる箇所

導入部分ですヨハネの黙示録10章1～3節は、**第6と第7のラツパ**の間の挿入部分で、**天より下った 強い天使が、神の恵みの啓示とともに確実に神の審判が行われることを告げる箇所**の **導入部分**です。

- ⇒ **神の裁き**は、「**神に聴き従うことを拒む者**」には、回避できない出来事で、**偶像礼拝とその結果の不品行の罪**には、**神の裁き**が必ず及びます。
- ⇒ 併し、**神の圧倒的な恵み**によって「**神の子**」と呼ばれ、「**額に神の印を受けた者**」と認められ、「**今あるは神の恵み**」と、**神に感謝し、讚美**できることを喜び合いたいとねがいます。
- ⇒ **神の恵み**は、「**強い天使**」が、「**雲、虹、太陽**」で示し、**神の厳しい裁き**の中でも、**不変**であることを身をもって証言しました。
- ⇒ **神の教会**も、肉眼では見せることができなくても、**神礼拝・執成しの祈り**を通して、**神の恵み**、「**雲、虹、太陽**」、を語りつづけたいと願います。
- ⇒ 人の心の変化ではなく、**神のみことば・聖書**に歩調を合わせて、人々の心に寄り添いたい。